船橋市郷土資料館・飛ノ台史跡公園博物館館報

みゅーじあむ・船橋

Funabashi Historical Museum & Tobinodai Historic Site Park Museum News
みゅーじあむ・船橋 Vol.18

令和４年３月

第 18 号

博物館ニュース [2]
船橋遺跡風景今昔８　高根木戸遺跡その２ [3]
縄文土器の「製図」 [4-5]
船橋の明治・大正・昭和　角力興行仕り候 [6-7]
インフォメーション [8]

博物館ニュース

郷土資料館　「下総三山の七年祭り」関連事業

ミニ展示「下総三山の七年祭り」

令和3年（2021）は、丑年でした。そして、千葉県指定無形民俗文化財「下総三山の七年祭り」の年でした。

七年祭りは、数え年で7年ごとに（※丑年か未年になります）、船橋市・千葉市・習志野市・八千代市の神社9社が参加する祭礼です。令和3年は、9社の神輿が「神揃場（かみそろいば）」に集まったり、稚児行列は行われたりすることなく、神事のみが執り行われました。

コロナ禍に見舞われた令和2年以来、地域の祭りや伝統行事の多くが、中止や規模の縮小を余儀なくされています。そのような状況下で、郷土資料館では、七年祭りにかけてきた地元住民の心意気を感じていただきたいと考え、館内での展示と、史跡を見学するウォーキングという2つの事業を企画しました。

まず、10月1日から、郷土資料館2階近現代コーナーで、ミニ展示「下総三山の七年祭り」を開催し、田喜野井地区の方から寄贈していただいた、舁夫（かきふ）と金棒引きの衣装、神輿につけた提灯などを展示しました。

そして、11月1日からは、「船橋の歴史散歩―マップで巡る下総三山の七年祭り―」を実施しました。参加者は、12月28日までの期間の自由な時に、郷土資料館が作成したマップを手掛かりにして、史跡を巡ります。そして、それぞれの史跡の解説動画を視聴し、ゴールである郷土資料館で、クイズに挑戦します。ミニ展示・歴史散歩ともに、令和3年12月28日まで実施し、幅広い世代の方々にご参加いただきました。

飛ノ台史跡公園博物館
企画展「船橋のいちばん暑かった時－縄文時代前期の地球温暖化－」

今から約7,000年前から6,000年前は、縄文時代前期といって、地球温暖化が進んで海面が上昇した時代です。縄文時代前期の地球温暖化は、太陽と地球との距離が変わったり、太陽光の当たる面積が変わったりしたことが原因だと考えられます。他にも海流の変化などによって気温が上がり、海面が上昇、日本も地形を変えていきました。

令和3年10月16日㈯から12月5日㈰まで開催したこの企画展には、41日間で1,643名の方々にご来館いただきました。1階ギャラリーに、旧石器時代以前から近現代までの関東地方や船橋の成り立ちや、縄文時代前期の土器や装飾品などを展示しました。中でも、西の台遺跡出土の線刻画土器は、チラシやポスターに取り上げられたこともあり、来館者の注目を集めていました。他にも、子ども向けにクイズラリーも実施し、参加してくれた子どもたちはただクイズに答えるだけでなく、問題に関連した豆知識を読んだり、関連する常設展示を見たりと、興味の幅を広げていました。

展示をご覧いただいた方々からは、「現代の私たちのテーマである温暖化を切り口にした企画展で面白い。」「関東地方の成り立ちや夏見低地の成り立ちは、地元民として大変興味深く勉強になりました。」などといった感想をいただきました。また、「昨年は早期、今年は前期なので、来年度は縄文時代中期ですか。」などというお声がけもいただきました。

昨年度に引き続いてコロナ禍ということで、制約のある中で行われた企画展でした。来年度以降も、コロナに負けず、充実した企画展を開催していきます。

船橋遺跡風景今昔 8

～高根木戸遺跡その2～

高根木戸遺跡調査

高根木戸遺跡は、現在高郷小学校の敷地になっています。昭和42年(1967) 7月から翌年2月まで本調査が実施されました。本シリーズ1（『みゅーじあむ・船橋』vol.11所収）で一度報告しています。

この発掘に際して、遺跡調査団は多くの写真を残しています。その一部をここに紹介します。

↑昭和42年発掘風景
現在の高郷小学校校庭から北側を撮影している。現在の西習志野1丁目付近に住宅が建ち始めている。

↑昭和42年発掘風景
現在の高郷小学校校庭から南東方向を望んでいる。台地端と斜面地には樹木が茂り遠景をさえぎっている。

↑底部に穴の開いた石皿の発掘状況（現在飛ノ台史跡公園博物館で展示中）

↑高郷小学校内「高根木戸遺跡資料室」には出土した土器などが展示されている。

高根木戸遺跡周辺今昔

↑昭和42年風景
台地下には飯山満川が流れ、水田が広がっていた。

↑令和4年(2022) 2月　現西習志野1丁目より
川は護岸で囲まれている。

↑昭和42年風景
正面遠方に七林にあったコンクリート工場の煙突が見える。

↑令和4年2月　現西習志野1丁目より
正面に東葉高速線の高架橋が架かる。

（山本　稔）

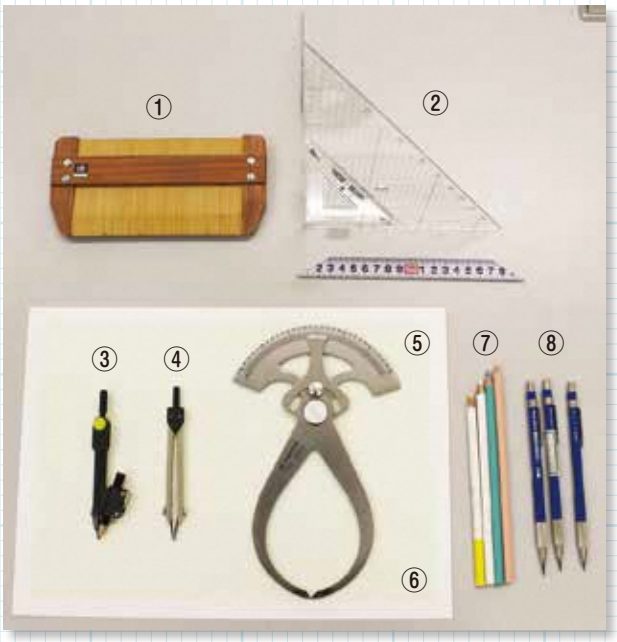
縄文土器の「製図」

1．はじめに

飛ノ台史跡公園博物館では、調査研究の一環として、寄贈資料などの整理を進めています。今回は、その中でも、縄文土器を図にするという作業に焦点を当てたいと思います。

そもそも、なぜ縄文土器を図(実測図)にする必要があるのでしょうか。それは、写真では伝わらない、細かい情報を伝えるためです。では、どのようにして縄文土器の実測図は作成されているのでしょうか。

2．実測に使う道具



①真弧(マコ)…外形を写し取るために使います。
②定規、三角定規…測点の計測に使います。
③コンパス…径などを測るために使います。
④デバイダー…点を測るために使います。
⑤キャリパー…器の厚さを測るために使います。
⑥方眼紙…実測図は実寸で作図するため、土器の大きさに応じたものを用意します。
⑦チャコペン…土器の観察時に使用します。
⑧鉛筆…線を描き分けるため、複数種類の濃さのものを用意します。

3．作図の流れ

(1)観察

縄文土器をはじめ、考古資料を図化する際には、対象とするモノをよく知る必要があります。

今回図化するのは、古作貝塚出土の深鉢形土器(縄文時代後期、約4000年前)です。
※飛ノ台史跡公園博物館所蔵
※筆者撮影、縮尺任意

そのために欠かせないのが観察です。その土器のつくり方をよく示している場所や、図示したい箇所を、チャコペンでなぞります。

そうすることで、観察結果が明確になるのと同時に、実測図に何を記録する必要があるのかがハッキリとしてきます。もちろん、観察時に引いたチャコペンの線は、図面作成後に消します。

また、このとき図化する際の正面を決めます。例えば、土器の特徴を最もよく示しているところなどです。

(2)断面図の作成

土器のフチの内側のつくりや、粘土紐の付け方、線の太さや深さ、どのような工具で文様を描いているのかを示すために、デバイダーや三角定規、真弧を使って、断面図を作成します。断面図は、口径・底径に合わせます。

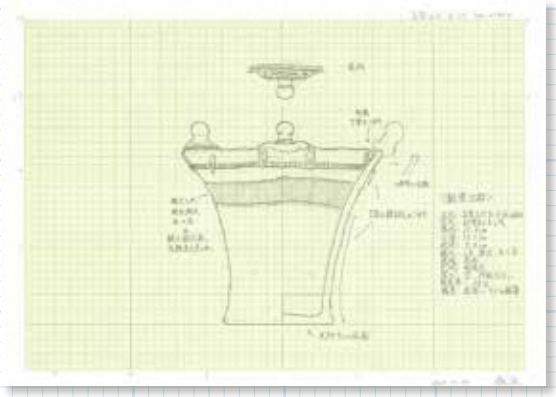
キャリパーで土器の厚さを計測しています。土器が傷つかないように、慎重に作業を進めます。

(3)正面図の作成

断面図の作成が終わったら、いよいよ実測図の骨格ともいえる、正面図の作成に入ります。正面は、(1)の工程の際に決めたものです。

断面図で示した器の傾きに合わせて、デバイダーや三角定規を用いて、図上に点を落とし込んでいきます。そして、実際の土器とよく見比べながら、細部の技法やニュアンスを図面に表現していきます。

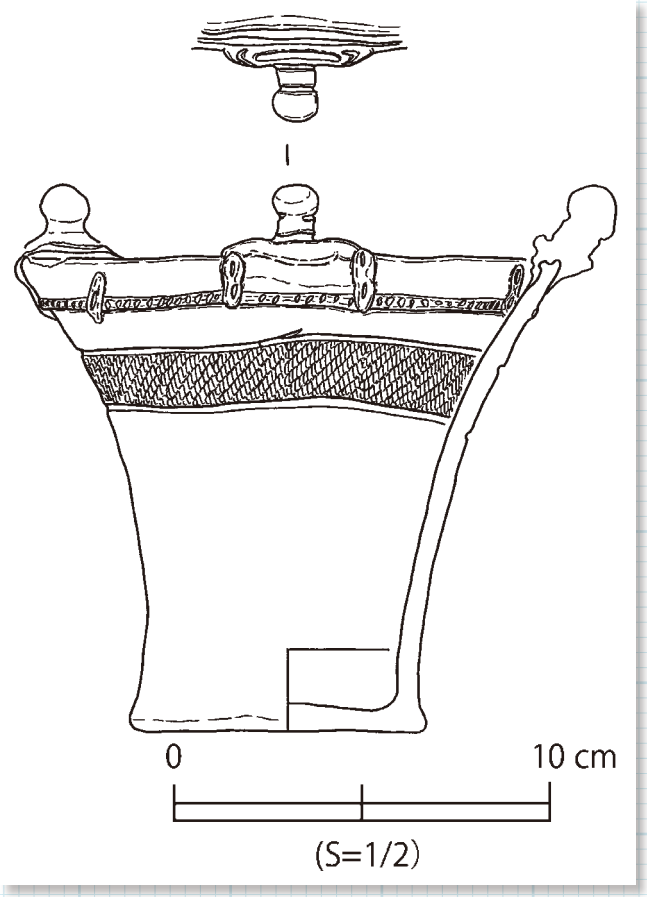
一通りレイアウトが完成したら、影や稜線を描き込んでいきます。縄文土器の文様は、縄文を除くと、基本的にへこんだ線(沈線)と粘土紐による線(隆帯)で成り立っています。どの線がへこんでいて、どの線が盛り上がっているのかを明確にするために、影や稜線を描き込むのも重要な工程です。



正面図を描き終えたら、その土器の特徴や補足事項を書き込みます。例えば、法量や文様の施文順序などです。
※縮尺任意

(4)トレース

最後に、トレース(清書)をします。少し前までは、トレース用紙に、専用のペンを使ってトレースする方法がメインでしたが、最近では画像編集ソフトを用いた、パソコン上でのデジタルトレースが主流になりつつあります。(3)でつけた影や稜線は、線の太さを変えることによって表現していきます。



トレース後の図面。今回はデジタルではなく、ペンを使ってトレースしました。
※S＝1／2

4．おわりに

以上の(1)～(4)の工程を経て作成された、寄贈資料などの実測図は、博物館紀要や発掘調査報告書などに掲載され、活用されます。ご自宅の近くに遺跡がある場合は、そこからどのようなモノが出土しているのか、報告書などを開いて眺めてみると、何か新たな発見があるかもしれません。

また、実測図を見るだけでも、作図者がどの点に着目して実測をしているのかが分かります。色々な発掘調査報告書を広げて、見比べてみるのも面白いかもしれませんね。市内図書館や博物館等で博物館紀要や発掘調査報告書を目にした際は、是非お手に取ってご覧ください。

(飯塚　真人)

角力興行仕り候

—明治27年(1894)2月、上山の相撲興行と大纏千代吉—

東葛飾郡上山村大相撲興行幕之内番附
通リ其外幕下三段目以下百貳拾名

東ノ方
大關 備後 大戸平廣吉
關脇 出雲 谷ノ音喜市
小結 東京 大纏千代吉
前頭 秋田 大戸崎岩松
前頭 平戸 御用木雲右衛門
前頭 阿州 鬼鹿毛清七
前頭 豊前 唐辛多喜彌
前頭 阿州 萩ノ森和助

木戸錢
大人 金七錢
小人 金四錢

蒙御免
行 本村庄九郎 勧進元 大纏千代吉
司 式守伊之助 本村朝之助 本村豊治郎 差 澁八角濱右衛門

西ノ方
大關 筑後 大砲万右衛門
關脇 大和 司天龍政吉
小結 大泉 大達羽左衛門
前頭 加州 小松山與三松
前頭 土州 知惠矢虎太郎
前頭 東京 小天龍與三郎
前頭 筑後 笹島林太郎
前頭 秋田 勝平秋作

一等席 金十錢
二等席 金五錢
但シ此廣告御持參ノ御方ハ木戸札金壹錢ヲ引ク

來ル二月一日ヨリ晴天三日間上山村ニ於テ角力興行仕候

相撲取元 板屋

上の写真は、相撲興行の広告です。郷土資料館で資料を見た時に、「東葛飾郡」「東京」といった地名の表記などから、おそらく明治頃に上山で予定されていた興行に関するものということはわかりました。しかし、同時に、何点か疑問が浮かびました。

- 何年の2月だろう？
- 雨で中止にならなかったのだろうか？
- 見た人の反応がわかる資料はないだろうか？

調べていくと、いろいろなことがわかってきました。

1．興行の時期

インターネットなどで、資料に載っている力士のことを調べると、実際の役より上位の力士が多いことがわかりました。番付が、上山での興行に参加する力士だけで編成されたからなのでしょう。

各力士が活躍した年代から、興行の時期を絞れないだろうか。そう思いながら調べていくと、東前頭の「御用木雲右衛門」が、明治27年1月場所で平ノ戸から御用木に改名し、同年5月に引退したことがわかりました。さらに、「唐辛」など他の力士の情報も確認し、上山での相撲興行が、明治27年2月1日から3日の予定で計画されていたことを突き止めました。

2．勧進元「大纏千代吉」

千葉県出身の力士について調べた文献や展示のパンフレットなどを確認したところ、勧進元の「大纏千代吉」の出身地が船橋市域、しかも上山の出身であることを知りました。それらの文献やインターネットからは、次のような情報を得られました。

- 文久3年(1863)生まれ、本名は鈴木梅吉。
- 明治18年(1885)5月初土俵、明治24年(1891)入幕、明治36年(1903)5月場所まで現役を続け、最高位は東前頭筆頭。
- 身長170cm体重90kgくらいの小兵で、立ち合いの上突っ張りに定評があった。
- 幕下の時からの四股名「大纏」は、師匠である出来山の現役時代の四股名。明治32年(1899)5月場所から、「出来山」となる。

市内の図書館で読んだ本には、力自慢の大纏に関する面白いエピソードが載っていました（米屋陽一編『浦安の世間話』青弓社、1992年）。また、郷土資料館の収蔵資料に、「大纏」と筆で書かれた「大相撲星取表」があることも発見しました。この星取表は、回向院（現東京都墨田区両国）の境内で開催された、明治26年（1893）5月場所の結果をまとめたものです。おそらく、大纏本人か大纏の関係者が、この資料の旧蔵者に配ったのでしょう。

3．明治 20 年代の相撲

当時の相撲は、今と結構違いました。

- 回向院の境内に旧両国国技館が建てられる前である明治26年5月場所の会場は、小屋掛け（臨時の会場）だった。
- 勝ち・負け・休みだけでなく、引き分けと、行司が勝敗を預かる「預り」があった。

上の写真は、「大纏」という墨書がある星取表の一部を拡大したものです。四股名の右側に並んだ●の数から、その力士が勝った数がわかります。太字の四股名の下には、右から左の順で、初日から千秋楽までの対戦相手と結果が表記されています（×が引き分け）。東前頭9枚目だった大纏は、7勝1敗1分1休で、初日、大戸平（西大関）に負けて、7日目に鬼鹿毛（西前頭14）と引き分けています。

当時は、今と違い1場所が10日間で、千秋楽は、十両のみの取組になることが多かったそうです。写真の星取表で、他の力士も千秋楽を休んでいるのは、そのためです。

4．興行当日は晴れたのか？

ところで、上山で予定されていた相撲興行は開催されたのでしょうか。「当日の天気を知りたい。あわよくば、見ていてくれないかな…」と思い、法典村長であった安川一（現船橋市藤原在住）の明治27年（1894）の日記を確認したところ、次の記述がありました。

> 二月一日　晴
> 　二度目正月二付休業
> 　上山長右衛門二男千代吉相撲興行二付、為祝儀
> 　壱円遣ス（後略）
> 一　二日　晴　朝雪ノ催シアリ
> 　休業
> 　相撲見物二柏井次左衛門並二子供三人来ル（後略）

「上山長右衛門二男千代吉」。四股名ではない表記を目にするとは、予想外でした。おそらく、日記を書いた安川一は、同じ法典村に住む長右衛門のことを知っていたのでしょう。そして、時期が旧正月と重なっていたことも理由だと思いますが、安川家は、2月1日と2日は家業を休みにしています（3日は不詳）。また、2日の後略部分によると、葛飾村の二子からも人が安川家を訪問して、相撲を見物したようです。2月2日に安川家を訪ねた大柏村柏井（現市川市）の「子供三人」も、間近で見る力士や相撲を楽しみにしていたことでしょう。

今回取り上げた2点の資料は、「法典地区の歴史講座」（令和4年1月21日、法典公民館）で紹介したものです。今後も、講座や講演を準備する過程で、今回のように新たな発見をできるように、丁寧に調査・研究を進めていくつもりです。

（小田　真裕）

インフォメーション

※両館の行事の詳細は、毎月１日号の『広報ふなばし』でお知らせいたします。
※日程・内容に変更が生じる場合がございます。最新の情報は、ホームページをご確認いただくか、直接両館にお問い合わせください。

郷 土 資 料 館

※薬円台公園内のSLの運転席を、毎週土曜日・日曜日・祝日（年末年始・雨天時を除く）の午前10時～午後４時に公開しています。

【令和4年9月までの主な行事予定】

期　　日	行　　事　　名	会　　場
令和３年度～５月８日(日)	企画展「海辺のようすの移り変わり」	郷土資料館 3階　第2展示室
５月14日(土)～７月中旬	国際博物館の日記念ミニ展示	郷土資料館 2階　近現代コーナー
６月26日(日)	地域史講座 「磯田長秋 ― 船橋に住んだ歴史画家 ―」(仮) ※文化課・宮本公民館と共催	宮本公民館
７月16日(土)～11月30日(水)	郷土資料館開館50周年記念企画展	郷土資料館 3階　第2展示室

協力：
船橋市華道連盟

飛ノ台史跡公園博物館

※飛ノ台史跡公園博物館では、毎週土曜日・日曜日・祝日の他、小・中学校の夏休み・冬休み・春休み期間中に、小学校４年生から大人向けのワークショップを開催しています。

【令和4年9月までの主な行事予定】

期　　日	行　　事　　名	会　　場
７月17日(日)～８月28日(日)	第21回縄文コンテンポラリー展	飛ノ台史跡公園博物館

「ふなばし生涯学習チャンネル」では、両館の職員手作りの学習動画を配信しています。➡

ご利用案内・交通案内

郷 土 資 料 館

開館時間　午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで）
住　　所　船橋市薬円台4－25－19
電　　話　047-465-9680
ＦＡＸ　047-467-1399
Ｅメール　kyodo@city.funabashi.lg.jp

交通案内

新京成線　習志野駅下車徒歩10分

JR津田沼駅北口から
船橋新京成バス・ちばレインボーバスで
「郷土資料館」下車徒歩2分

飛ノ台史跡公園博物館

開館時間　午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで）
入 館 料　一般110円（団体20名以上70円）
児童生徒50円（団体20名以上30円）
市内在住中学生以下　無料
住　　所　船橋市海神4－27－2
電　　話　047-495-1325
ＦＡＸ　047-435-7450
Ｅメール　tobinodai@city.funabashi.lg.jp

交通案内

東武アーバンパークライン
新船橋駅下車徒歩８分
京成本線　海神駅下車徒歩15分
東葉高速線　東海神駅下車徒歩12分

船橋新京成バス
JR船橋駅北口から建鉄循環
「海神中学校前」下車徒歩１分

休館日カレンダー

4月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

5月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

6月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

7月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

8月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

9月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

□ は郷土資料館、飛ノ台史跡公園博物館休館日　※都合により、休館日が変更になる場合があります。

発行：令和4年（2022）3月31日　船橋市郷土資料館・船橋市飛ノ台史跡公園博物館
表紙写真：下郷後遺跡のハイガイと向遺跡出土の縄文時代前期の土器　神保君雄氏撮影